

令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	① 社会の変化に対応できる確かな知識と技能を身につけるための教育課程を編成する。 ②DX社会に対応できる、独創的な創造力と、自ら課題を発見し解決するための思考力・判断力・表現力等を育成する教育システムを開発する。	①社会の変化に対応できる基礎・基本的な知識と技能の定着と、確かな学力を育成する方策の充実を図り、全校生徒が1人1個以上の資格取得を目指す。 ②一人一台端末を活用した授業づくりに取り組む	①基本的生活習慣と学びの基盤となる学習規律の確立を旨とし、必要な学習環境をつくる。また生徒に随時資格案内や講習会を行う。 ②一人一台端末を活用した授業実践例や、ツールなどの研修を行う。	①基本的生活習慣及び学習規律を確立し、落ち着いた学習に取り組める環境づくりを推進できたか。全校生徒の何割が資格を取得したかを12月にアンケート調査を行う。 ②一人一台端末を活用した授業づくりのための研修を行ったか。	①資格等は85%の生徒が取得することが出来た。一番多い生徒で9種類の資格等を取得していた。また、国家資格は40%の生徒が保有していることがわかった。 ②一人一台端末を活用した授業実践例の提示を行った。	①資格等の保有率を100%にできるよう指導時間を確保できるよう改善する。また、2年生以上の国家資格保有率を70%以上にできるよう、各系での資格案内、講習会を充実させる。 ②一人一台端末を活用した授業実践例を基に、授業見学などを計画し、より良い授業づくりのための土台をつくる。	① 資格取得は生徒にとって今後社会で活躍するうえで非常に有益なものとなる。日頃からの指導に感謝している。今後もぜひ推進していただきたい。 ② 通信環境の充実も重要である。端末をさらに活用する授業研究の推進を期待する。	①一定の割合で資格の取得ができているが、取得率の更なる向上が課題である。 ②端末の使用率を更に高める必要がある。	①生徒・保護者に対する案内・周知の徹底を行うと同時に資格取得のメリットを伝える。 ②授業実践例の紹介等を充実させることで、各授業で少しずつ使用頻度を向上する。
2	生徒指導・ 支援	①安全・安心な学校生活が送れるように支援するとともに、個に応じた教育相談体制の充実を図る。 ②部活動の活性化と生徒の自立に向けての取り組みの充実を図る。	①生徒理解を深めるために様々な機会、手段を用いて教育相談を行い、対応を強化する。 ②部活動への興味関心を持つように、全校生徒に各部の活動が見えるようにする。	①サポートドックを活用して生徒共有会議やミーティングを図り、生徒理解を深める個に応じた対応を行う。 ②連盟の大会へ積極的に参加する。体育祭文化祭などの学校行事においては部活動に役割を与え、積極的に参加する機会を与える。	①生徒情報共有会議やミーティングにより、生徒対応が実施できたか分析・検討を行う。 ②各種連盟の大会や体育祭や文化祭などの様々な学校行事に積極的に参加できたか。	①サポートドックやミーティングを通して生徒共有を行い職員間で指導・支援に繋げることができた。 ②各種連盟の大会や体育祭、文化祭などの様々な学校行事に積極的に参加できたが、加入率の向上に課題が残る。	①職員間で生徒情報を共有することが出来たが、今後は特別指導や退学者の減少に繋げるような支援をする必要がある。 ②部活動顧問だけではなく、外部インストラクター・講師などをさらに活用していく必要がある。	①退学者が多い理由の一つが不本意入学の生徒と考えられることは理解した。SCやSSWの活用を含めた教育活動のさらなる充実に努めていただきたい。 ②部活動の日ごろの支援に感謝している。今後お願いする。	①サポートドックに加え、日常的に生徒の変化に対応することでプッシュ方支援を加速する。 ②部活動加入率の更なる向上に努める必要がある。	①職員間での生徒情報共有を更に強化する。 ②外部指導員を十分活用することで、専門の職員がいなくても対応できる体制を作る。
3	進路指導・ 支援	①生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように計画的、組織的なキャリア教育を行う。 ②個々の進路希望実現に向けた支援をする。	① 生徒が自らのキャリア形成を踏まえた進路指導を組織的に行う。 ②個々の進路希望実現に向けた支援をする。	① 各種進路活動を通じて自らのキャリア形成を考え、進路選択ができるようにする。 ②個々に対して進路希望実現のための支援を行う。	① キャリア教育の育成ができたか。 ②就職希望者の就職内定率100%、進学希望についても適切に指導できたか。	①②各種進路ガイダンスやhandy 進路指導室の導入により進路選択の時間に余裕ができ、しっかりとした将来の進路形成に繋がった。就職希望者、一次内定率は80%、進学志望者、学校推薦型選抜23名	①②就職・進学状況を参考に、各学年におけるキャリア教育の重点を把握することで、個々の進路実現を支援する。	①②ミスマッチによる離職者対策として会社見学の充実が重要である。様々な支援を展開しているが、関係する企業との連携もさらに加えてほしい。	①②一定の進路実現を可能にすることができたが、一方で離職者対策が必要である。	①②ミスマッチを減らすために、1・2年次の進路ガイダンスを更に充実させる。
4	地域等との 協働	①社会に貢献する独創的な発想を有する生徒を地域とともに育成する環境を構築する。 ②地域が有する教育資源を有効に活用することにより、地域を支える人材として求められる素養と実践力を身に付けさせる。	①社会に貢献する独創的な発想を有する生徒を地域とともに育成する環境を構築する。	①地域・関係機関等と連携を図り、地域連携に係る行事を通して生徒が主体的に学習成果を発表する。	①各種行事後に生徒・地域からアンケートをとり、満足度が行事前より上がったか。また、アンケートからの課題について十分に分析・整理できているか。	①各種行事に参加した生徒は普段、学習した成果を活かし主体的に活動することができた。また、参加者の実施後の満足度は高く、概ね良好であった。	①ホームページやSNSにより情報発信をしたことにより、各種行事への参加者を増やすことができたが、認知度を上げることには課題が残った。	① 区役所との防災の取組の実施や中学校のふれあい教室参加等に感謝する。今後も継続を希望する。また、学校の魅力発信についてはさらに充実させる必要がある。	①様々なメディアを通じて広報活動を積極的に行ったが、入学希望者の増加には繋がらなかった。	①引き続き積極的な広報活動を展開すると共に、生徒と外とを結びつける行事を企画する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①一人ひとりの職員が学校マネジメントの視点や能力を身に付け、各グループが主体となり、業務の省力化や、新たな分野の業務を遂行する組織体制を構築する。 ②地震や水害に対する地域の特性に合わせた防災体制の充実を図る。生徒・職員の防災意識を高めさせ、安全で安心な防災環境を整える。	①柔軟な働き方がしやすい体制を作り、各グループで業務内容の情報共有を行う。 ②地震や水害等が起きた際の職員の防災体制の検討や生徒への防災教育の意識向上を図る。	①年間で各グループの業務を検証し、柔軟な働き方に向けて業務の見直しを行う。 ②校内の避難経路や危険個所の把握やDIGを体験させて、地震・洪水等の防災意識を高めさせる。	①各グループの業務内容の把握と見直しができたか。 ②校内の避難経路や危険個所を把握できたか。DIGを通して防災意識が高まったか。	①各グループの業務内容を検証し、課題の洗い出しを行った。今年度は大きな改編は実施しなかった。 ②防災訓練を授業中に事前アナウンスなしで行ったことで、緊張感のある訓練を行うことができた。DIGはiPadを活用して実施したことで、気になったことを即時に調べてマップに記載していく等を行い、地震・洪水等の防災意識を高めさせることができた。	①グループごとの業務内容の見直しとともに、校内全体の体制の再編も含めて検討する必要がある。 ②災害が起きたときに生徒一人ひとりが安全に避難できる、効果的な防災訓練を実施できるように努めていく。	① 職員の健康管理は教育活動の充実のためには欠かせない。さらなる工夫を取り入れて働き方改革を推進してほしい。 ② 防災訓練の行動観察を記録した動画において避難訓練の刷り込みの課題が浮かび上がった。総合的な訓練だけではなく場面に応じた訓練を取り入れ、主体的に判断し行動できるようにすることが求められている。	①柔軟な働き方に向けて一定の検討と取組を行った。 ②抜き打ちの避難訓練やDIG等により生徒が主体的に思考・判断する機会を与えることができた。	①更に検討を重ねることで柔軟な働き方を追求する。 ②場面に応じた訓練等、更に生徒が主体的に考える機会を増やす。